

あの頃 学校では... 会社では...

昭和30年代

「投資が投資を呼ぶ」と言われた岩戸景気の年代で、所得倍增計画により五千円札、一万円札が新しく発行された。昭和39年には、東京オリンピックが開催され、国全体が活気に満ち溢れた。県内では、天童市、東根市、尾花沢市が相次いで市政執行した。空の玄関口、山形空港が開かれたのもこの年代である。

児童生徒数の移り変わり

	小学校	中学校
昭和30年	186,374	95,818
昭和32年	195,910	91,023
昭和34年	202,256	80,570
昭和36年	184,629	99,259
昭和38年	160,129	104,003

山形県教育関係者名簿より



新潟地震後の屋外での授業



だるまストーブで
暖まりながら
児童会の話し合い



小学校の体操授業



講堂での書道講習会



活発化した吹奏楽部の活動



中学校駅伝大会



元の教育会館

先生方によって設立された<山形教育用品>

昭和31年（1956）日本は戦後最高の景気で沸き、国連への加盟が認められ、「もはや戦後ではない」が流行していました。本県でも、山形市内に2つのデパートが開店して賑わい、メルボルンオリンピックで県出身の笹原正三選手が金メダリストになるなど、右肩上がりの時代を迎えました。この年4月、資本金200万円従業員数22人で弊社が設立されました。県の教育研究所（現：県教育センター）や教職員組合があった、元の県教育会館（山形市木の実町）の一角がその場所でした。近代教育の原点ともいえる「山形県教育会」を礎にして誕生した教材教具・書籍等の販売会社です。その後、学校の先生方からの出資によって増資を重ね、現在は資本金8,800万円となっています。会社誕生時から現在まで、先生方の支援と協力で成り立ってきた本県全域の教育活動をお手伝いする会社です。